

第 3 章 設計事例集

(1) 将来の地域開放や障害児の受け入れを考慮して設計された小学校



久居市立誠之小学校

所在地 三重県久居市西鷹跡町 424
 設計者 日新設計（株）
 構造 鉄筋コンクリート造
 階数 地上3階（一部平屋建）
 竣工年 2000年3月
 敷地面積 3,948.72㎡
 建築面積 2,933.12㎡
 延床面積 2,901.31㎡
 用途 小学校

障害の有無に関わらず、共に学び、共に生きるノーマライゼーションの理念を実現するため、また地域開放対象となるため、児童以外にも高齢者、障害者等に対しても優しい施設づくりを目指し、校舎のバリアフリー化を図っている。

仕上げには木をふんだんに使い、温もりのある優しい仕上げとしている。

また、児童の体験学習を行うなどみんなでバリアフリー教育をも推し進めている学校である。平成12年度三重県バリアフリーまちづくり賞受賞。

A 駐車スペース

来客用の玄関脇には車いす使用者用駐車スペースを配置。また、傾斜路は、障害者用駐車スペースから最も近い位置に配置している。



B アプローチ（1）

視覚障害者誘導用ブロックにより、玄関前のインターホンに誘導し、職員を呼び出す。内部の廊下には、誘導を目的とした視覚障害者誘導用ブロックは敷設されていない。

C アプローチ（2）



D エレベーター

身体に障害を持つ児童の受け入れだけでなく、怪我をした児童や、地域開放時の高齢者、障害者等に配慮し設置している。



E 児童用出入口

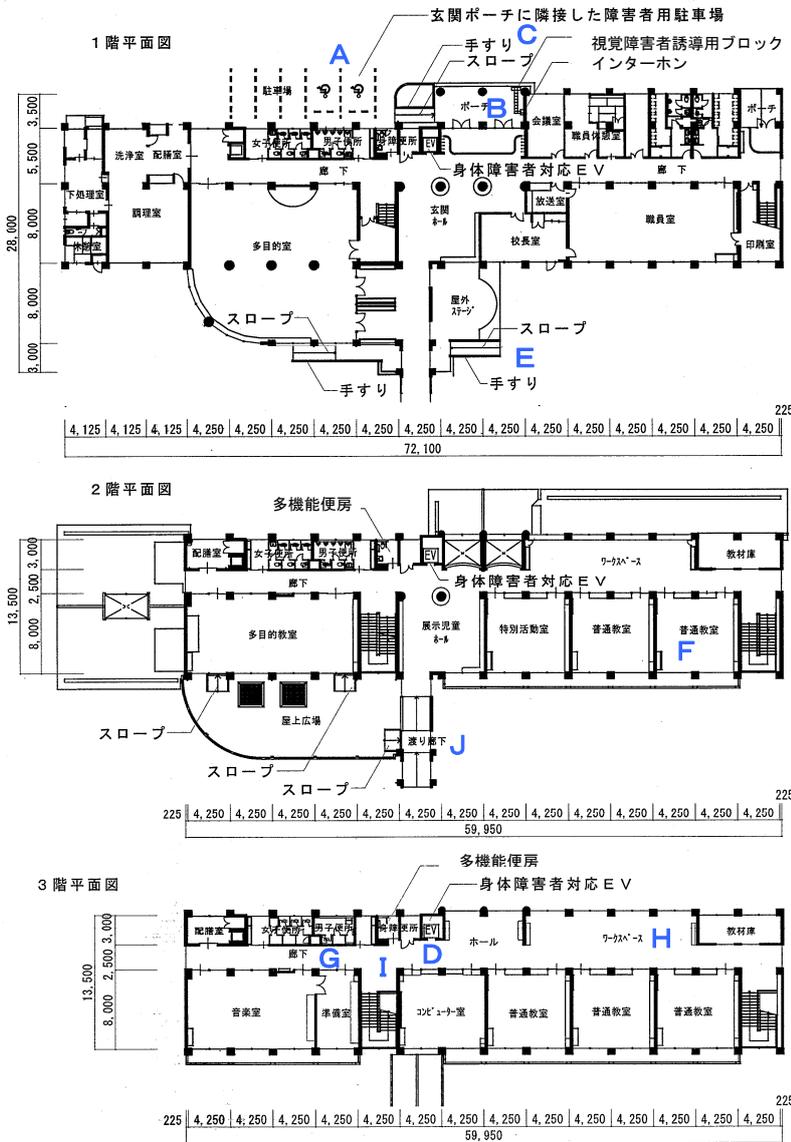
児童用の出入口にも傾斜路と階段が併設されている。



F 黒板

各教室に設置されている黒板は、容易に上下させることができる。身長の高い人にも書きやすく、児童もいすの上に立って書くなどの危険な状況を回避できる。また、黒板がやや前に突出しているため、車いす使用の先生からも、足が黒板の下に入る形となり書きやすいと好評である。

- エレベーターや多機能便所の設置
- 黒板などの設備にも細かな配慮
- 各所交流スペースにおいて木製ベンチを設け、ゆとりをもった利用に配慮



G 室名表示

文字だけでなく、ピクトグラムを利用し、低学年の児童でも分かりやすいよう配慮されている。



H ワークスペース

廊下幅は広く取られている。また廊下の一部をワークスペースと一体化してゆったりさせている。



I 多機能便所

1階の多機能便所の大便器(左)は一般的な大きさのものを使用しているが、2階の多機能便所の大便器(右)は子ども用のやや小さい便器を使用しており、バリエーションを持たせている。



J 渡り廊下

隣棟との渡り廊下も、段差を無くし緩やかな傾斜路としている。



K 既存棟児童出入口

改修を行っていない既存棟についても児童出入口に傾斜路を設置している。

(2) 利用者への「温もり」「わかりやすさ」「使いやすさ」に配慮した学校



A 渡り廊下

雨天時に濡れることなく移動ができる様に各棟を渡り廊下で繋いでいる。

静岡県立浜松大平台高等学校

所在地 静岡県浜松市大平台四丁目
25番地1号
設計者 株式会社 松田平田設計
構造 鉄筋コンクリート造
一部鉄骨造 木造
階数 地上4階
竣工年 2006年3月
敷地面積 64,847.34㎡
建築面積 10,199.63㎡
延床面積 19,857.78㎡

静岡県立浜松大平台高等学校は、ユニバーサルデザインを活かし、生徒、教職員及び地域開放利用者の全ての人にとって「温もりを感じ」、「わかりやすく」、「使いやすい」施設となっている。

- ・生徒ホールでは、各所で木材を採用し温かみのある交流スペースとなっています。また、手に触れる階段などの手摺には集成材を採用している。
- ・地域開放利用者が迷うことなく施設を利用できるように、わかりやすいグラフィカルなサイン計画を行っている。
- ・多機能トイレ及びエレベーターは各棟各階に設置していて、施設のどこに居ても利用しやすい配置計画となっています。また、雨天時には濡れることなく移動できるようにインナーの渡り廊下で各棟を繋いでいる。
- ・県では、「しずおかUD行動計画2010」を策定し、この中に県立学校の整備に関する施策を位置づけている。



B 生徒ホール

生徒、教職員及び地域開放利用者の交流の場となる生徒ホールは、温もりのある木質空間(一部県産材)として



F 受付

車いす利用者が利用しやすいように受付カウンターの高さを低くしている



サイン

グラフィカルで見やすいサインを各所に設置している



K 多機能トイレ

オストメイト対応の多目的トイレには、地域開放利用に配慮しベビーシートやベビーチェアを設置している。また、各棟各階に設置している。



- 県のUD計画に則った計画的なバリアフリーの推進
- 高等学校のユニバーサルデザインモデル



C 渡り廊下 (内部)

県産材を使用した明るく温かみのある渡り廊下は、ゆとりのある廊下幅を確保している



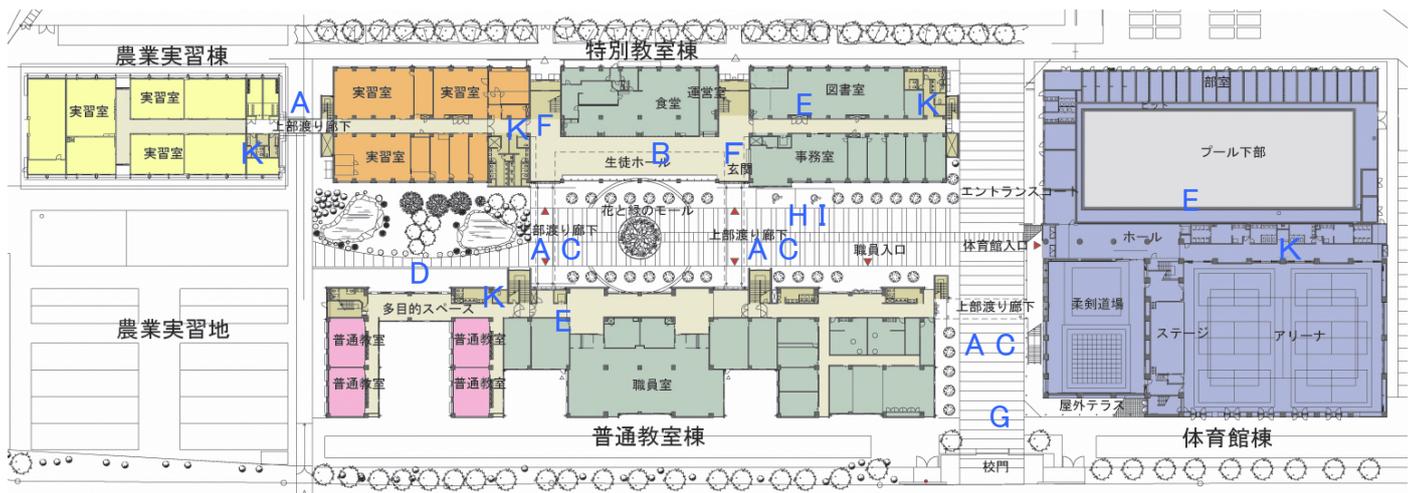
D 多目的スペース

生徒同士の交流の場となる多目的スペース



E エレベーター

利用者の利便性に配慮し、各棟に配置している



1階平面図

「しずおかUD行動計画 2010」における学校関係施策計画 (計画期間平成 15-22 年)

- 県立学校のUD整備計画 (現状値 H15→目標値 H22 年)
 - ・ スロープ、視覚障害者誘導用ブロック、階段、手すり、車いす使用者駐車場 73%→100%
 - ・ 車いす使用者用トイレ 46%→60%
 - ・ 自動ドア 20%→40%
 - ・ エレベーターの整備 21校→26校

- 学校における優先順位
 - ・ 原則として校舎改築とセットで実施
 - ・ 加えて障害のある生徒の入学時に整備

- 学校施設のUD整備の基本方針
 - ・ エレベーターは校舎改築に際し1校1基を整備
 - ・ 車いす使用者用トイレ及び自動ドアは校舎改築または耐震補強工事に際して1校1カ所を整備
 - ・ 上記は障害がある生徒が入学したとき及び在校生に障害が発生したときにも実施
 - ・ スロープ、階段手すり、視覚障害者誘導用ブロック、車いす使用者用駐車場は耐震補強に際し全校に整備

(3) 車いす使用者に配慮した幼稚園



A 道路からの全景

原宿幼稚園

所在地	東京都渋谷区神宮前
設計者	アンリ・ゲイダン+金子 文子/シエル・ルー ジュ・クレアシオン
構造	鉄筋コンクリート造
階数	地上2階
竣工年	1998年7月
敷地面積	685.11㎡
建築面積	437.99㎡
延床面積	655.57㎡
用途	幼稚園+住宅

本建築物は、牧師館併設のキリスト教系幼稚園である。

東京都福祉のまちづくり条例適合建築物で、小規模ながら障害者等への配慮がなされており、内外共にデザイン性の高い快適な空間として整備されている。

- ・通りから中心の多目的ホールまで傾斜路等で段差なしでアプローチできる。
- ・アプローチルートには視覚障害者誘導用ブロックも敷設している。
- ・シャワーコーナー付多機能便房を園児用便房に近接して設けている。
- ・シャワーコーナーは園児の下洗い場としても機能している。



B 園庭からの全景

左端には道路と園庭を結ぶ路地途中に障害者用入口がある。



C 正面玄関横の障害者用通路

園庭に通じる路地に視覚障害者誘導用ブロックが敷設されている。勾配

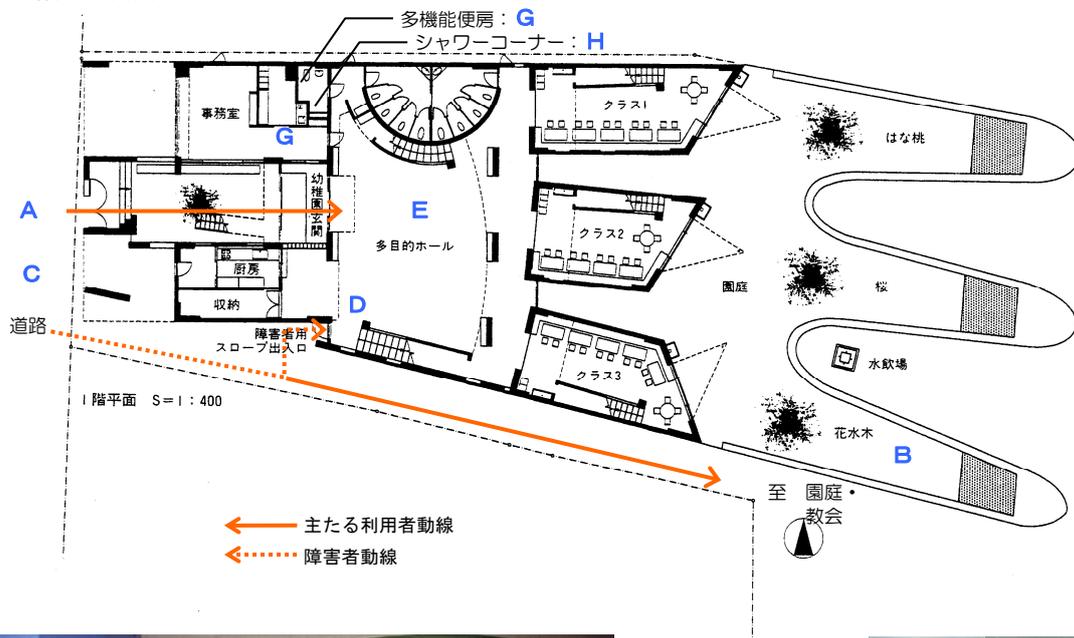
1/20



D 障害者用入口

- 中心の多目的ホールまでの段差のないアクセス
- シャワーを備えた多機能便房の設置

1階 平面図



E 多目的ホール
奥に多機能便房を設けている。



F 多機能便房入口



G 多機能便房
緊急呼び出しボタン、洗浄ボタン（自動・手動兼用）も装備している。



H シャワーコーナー
多機能便房内にシャワーコーナーを設けている。

(4) 視覚障害者等の利用しやすさに配慮した眼科専門クリニック



A クリニックのエントランス*

お茶の水・井上眼科クリニック

所在地 東京都千代田区神田駿河台
4-3 新御茶ノ水ビルディング
18~20F
設計・監理 (有)シマ建築事務所
パワープレイス株式会社
インテリアデザイン
パワープレイス株式会社
アズールデザイン
階数 地上 18~20 階
延床面積 2,827 m²

視機能に障害のある多くの利用者を迎えるための取り組みとして、明快な動線計画、わかりやすさ、使いやすさの追求を行った眼科病院の外来部門である。

整備時には、色弱者や弱視者の利用者に対するアンケートにより、ピクトグラムや、サインのフォント等のわかりやすさを確認している。

また竣工後には、わかりやすさの検証、実際の利用者へのアンケートの実施等により課題を発見し、改善策の検討・実施を継続的に実施している。



B サイン計画*

利用者へのアンケート調査による確認を踏まえて採用されたピクトグラム、フォント、色等を用いたサイン



C 視覚障害者に配慮した動線の表示*

床の誘導パターンと天井照明を組み合わせ、主な動線を強調している。



D 院内専用エレベーター

高層ビル内に3層に分かれた施設でバリアフリー化を図るため設置された院内専用エレベーター。竣工後に、視認性を高めるため、エレベーターホールの照明と床仕上げを改善した。



E 受付会計ロビーのサイン

竣工後に、エレベーターホールから奥まった位置にある受付がわかりにくいという課題がわかったため、改善で光るサインを追加した。



F フロアマップ

表示する情報を極力絞り、患者が基本的に自分で移動する範囲のみを色を使って表示している。(診察室などは敢えて表示していない。)

- 明快な動線計画、視覚障害者のわかりやすさ・使いやすさに配慮した内装、案内表示
- 利用者アンケート等を通じた、継続的な改善の取り組み



I 各階平面

エレベーターを中心に、時計回りに患者の動線を設定、この動線沿いに移動しながら検査、診察、会計処理を行うことができるようにになっている。

← 主たる利用者動線

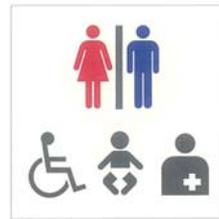


K 多機能トイレ (だれでもトイレ)

左 20階エレベーターホール寄りに設置された車いす対応、オストメイト対応を図ったトイレ。着替え台、ベビーチェア等が設置されている。

右 19階には勝手の異なるトイレが設置されている。濃い色の壁に白い便器や流しを配置して目立たせている。

*: 撮影 フォワードストローク



▲採用案

G ピクトグラムのデザイン

利用者等による認知度の検証の結果、複数のデザイン案からオリジナルデザインの女子トイレのピクトを採用した。



▲採用案



H 手すり付ソファ*

背もたれに手すりを設けたソファ。座面の高さ・形状も高齢者等に立ち座りし易さに配慮している。床の色と明確に差をつけて、弱視者にとって通路空間を認識しやすくしている。

ロビーの照度は照明を自動的に500lxに調整し、目の疲れや歩行時の安全性に配慮している。



J 視認性を高めたカウンター*

壁とカウンターの色にコントラストをつけ、誘目性を高めた。



(5) 高齢者、障害者等が利用しやすい町営診療所



比布町立びっぷクリニック

所在地 北海道上川郡比布町中町 1-2-10
 設計者 ㈱サン設計事務所
 構造 鉄筋コンクリート造
 階数 1階
 竣工年 2000年
 面積 1,614.99㎡

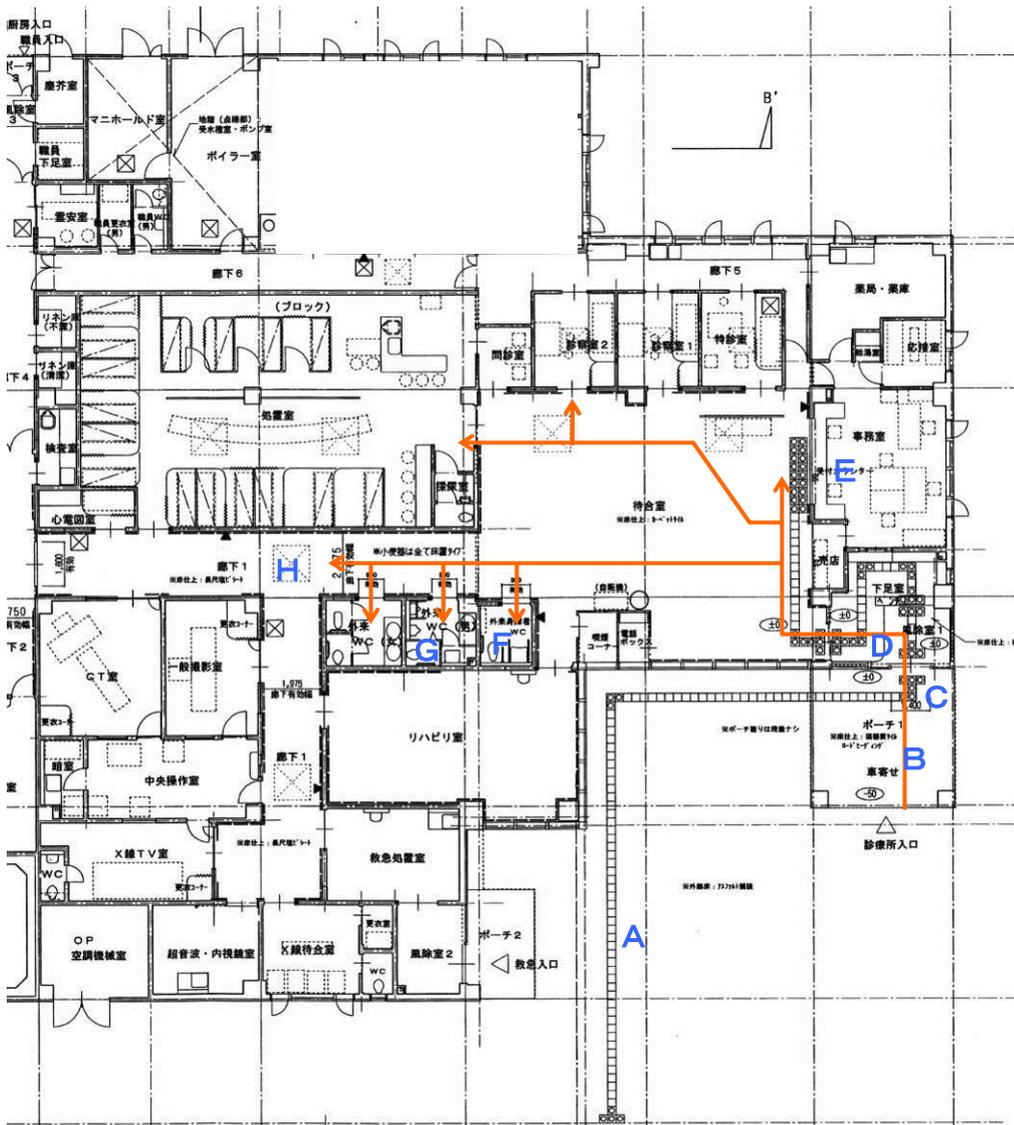
町立の地域医療の中心施設として整備され、療養型、介護型、医療型の病床計19床を持っている。

施設整備の理念として、「思いやりと健康」をあげ、旧ハートビル法の基準遵守と共に、社会的、心理的な障壁の除去に配慮した計画を行っている。

来院者は1日約130人で、その約2/3は65歳以上の高齢者である。また、車いす使用者は、1日に5~6人である。このため、施設の整備は、高齢者、障害者等に使いやすい居心地のよい、ゆったりとしたスペースを確保している。

A. B. C 視覚障害者誘導用床材、

ポーチ部分のロードヒーティングや、幅の広い自動ドア、段差のない出入口が整備されている。



← 主たる利用者動線

- 電光表示による案内がある受付カウンター
- 手すりに点字による室名を表示



D 連続した視覚障害者誘導用ブロックの敷設
2連引戸の自動ドア、段差のない玄関。ここでスリッパにはき変えるが、外部から内部まで段差はない。



E 受付までの連続した誘導
高さ 750mm のカウンター。電光表示による案内・情報提供がなされている。



F 多機能便房
折りたたみ式の乳幼児用ベッドも整備されている。



G 便所(男子用)
小便器、大便器共に手すりを整備している。



H 病棟の幅広い廊下
ドアの内外がわかるガラス窓、連続した手すり(点字シールと文字の室名表示)、壁に埋め込んだ消火器が設置されている。

右：院内PHSを使ったハンディナースコールシステム



(6) 視覚障害者等にも配慮した音楽ホール



A 音楽堂正面

石川県立音楽堂

所在地	石川県金沢市昭和町 20-1
設計者	芦原建築設計研究所
構造	鉄骨鉄筋コンクリート造
階数	地下2階地上5階
竣工年	2001年8月
敷地面積	6,904.69㎡
建築面積	6,155.56㎡
延床面積	29,400.99㎡
用途	劇場（コンサートホール、邦楽ホール、交流ホール）

本施設は、藩政以来培われてきた伝統芸能とオーケストラ・アンサンブル金沢に代表される質の高い洋楽文化を育んだ土地柄を背景に、邦楽と洋楽の交流及び、内外に向けて音楽文化を発信する拠点として計画された。

南北に配置された両ホール入口を結ぶインナーモールは、常時公開されており、中央の1階インフォメーションを経由する動線を中心に、施設内外には視覚障害者をはじめ、様々な障害者への配慮がなされている。



B コンサートホール玄関入口



C 音声触知図案内板

インターホンを使ってインフォメーションに案内要請ができる。

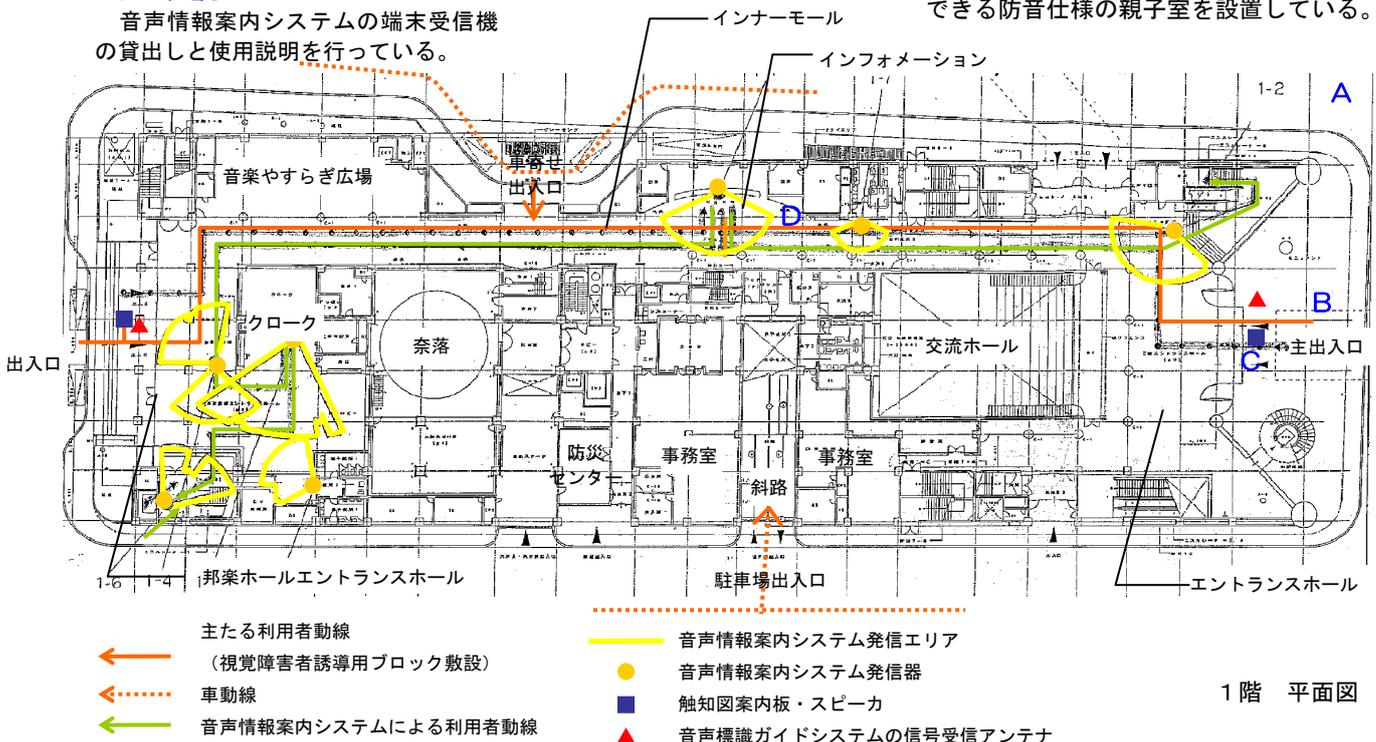
利用者は携帯している小型送信機のボタンを押し、必要な時だけ音声触知図案内板のスピーカから音声案内を受ける。「触知図案内板はこちらです。入口は案内板の右手3mの所にあります」

- ・視覚障害者への配慮として、両ホールエントランス前に音声標識ガイドシステム及び、音声触知図案内板を設け、視覚障害者誘導用ブロック等を併設して1階インフォメーションまで誘導している。インフォメーションでは、音声情報案内システムの端末受信機を貸出し、この誘導・案内を利用して2階クロークまで誘導する。クロークから座席までは係員が案内する。
- ・通路側座席には、座席番号の点字表示を行っている。
- ・聴覚障害者への配慮として、同時通訳装置を利用した赤外線方式による補聴システムを用意している。
- ・車いす利用者への配慮として、両ホール内に車いす利用者用観覧席を設けている。また、一般便房の手前には多機能便房を設け、インナーモールに面する多機能便房はオストメイトへの配慮も行っている。
- ・子ども連れでも周りに迷惑をかけずに鑑賞できる防音仕様の親子室を設置している。

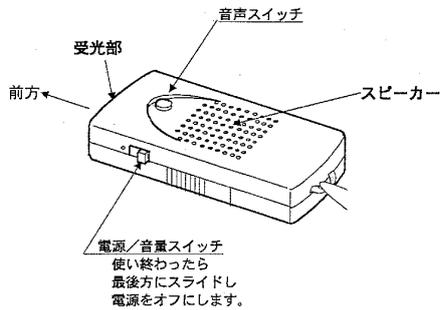


D インナーモール中央部のインフォメーション

音声情報案内システムの端末受信機の貸出しと使用説明を行っている。



- 視覚障害者をはじめ、様々な利用者に配慮した音声案内システム
- 親子室の設置



E 音声情報案内システムの端末受信機

利用者は受信機のスイッチを押しながら発信器の方向に向けると、手元の受信機のスピーカーから音声で案内情報を得ることができる。赤外線通信の指向性を利用して、最も良く聞こえる方向に進むことで、目的地に到達できる。



G 車いす使用者用観覧席



I コンサートホール内部

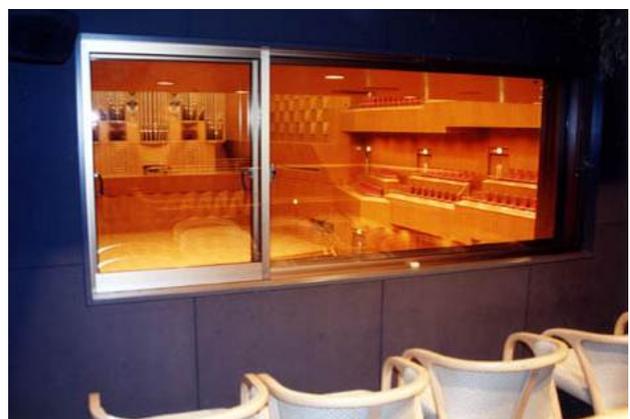
2階席の奥の左右に親子室が設けられている。



F 2階コンサートホール ラウンジ

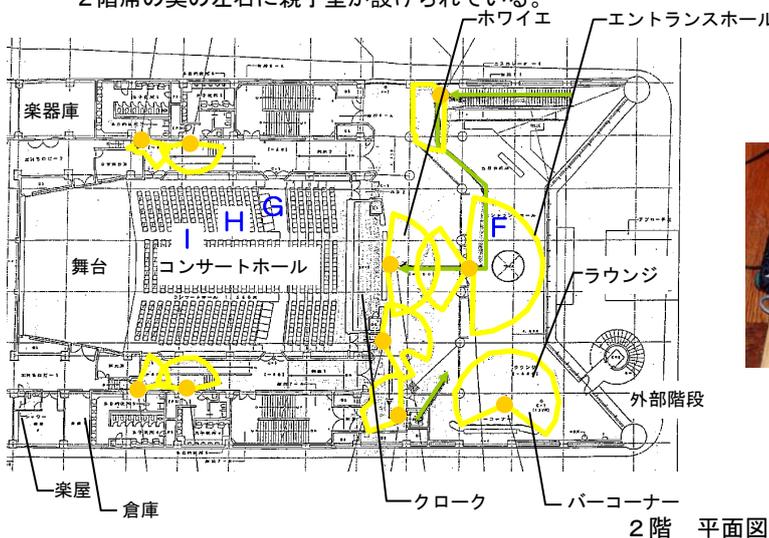
1階インナーモールと連続して常時公開されているエリア。音声情報案内システムによって、ホワイエ出入口、クローク、トイレ、EV、バーコーナーへの案内・誘導が受けられる。

**H 通路側座席背板の点字
座席番号**



J 親子室内の観覧席

必要な場合にいつでも使えるように予約席とせず、常時空けてある。



2階 平面図



K FM (2カ国) 赤外線誘導無線方式の同時通訳受信機とイヤホン (左)、磁気ループ用補聴器 (右)

イヤホンの代わりに磁気ループを接続し、首に架けると使用している補聴器から音声案内や音楽を聴くことができる。

(7) 車いす使用者、聴覚障害者の利用に配慮したホールをもつ複合施設



A 施設外観

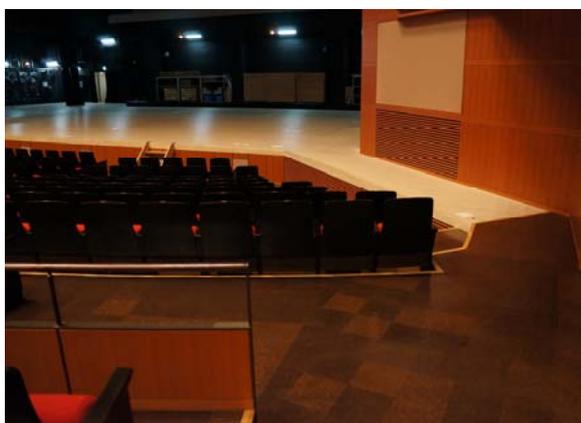
刈谷市総合文化センター

所在地 愛知県刈谷市若松町2丁目104
 発注者 独立行政法人都市再生機構
 中部支社
 設計者 (株)東畑建築事務所
 構造 SRC造、S造
 階数 地上5階、地下1階
 敷地面積 11,765㎡
 建築面積 7,997㎡
 延床面積 22,767㎡
 竣工 2009年8月

駅前再開発の一環として整備された複合施設で、大小のホールと生涯学習施設、駐車場棟からなる。

実際に利用する市民団体、障害当事者団体、支援団体等から意見を積み、市と都市再生機構、県で構成する「ユニバーサルデザイン検討会」で検討を重ねて、設計に反映した。

反映した内容は、「ユニバーサルデザイン体験会」を展示会形式で開催し、利用者の目線でチェックを受けている。



B 大ホール（1541席） 車いす使用者用客席、客席から段差無しで舞台につながるルート エントランスホール、ホワイエから客席まで、段差なくアクセスでき、車いす使用者用客席から段差無しで舞台上ることができる他、楽屋にも舞台から段差なくアクセスできる。

車いす使用者用客席を2箇所に分散し、合計8席設けているほか、同列の客席は多様な対応が可能なよう、全て可動席スペースとしている。

C 客席の通路

段鼻と踏面の色彩を塗り分け、段差があることをわかりやすく表示している。



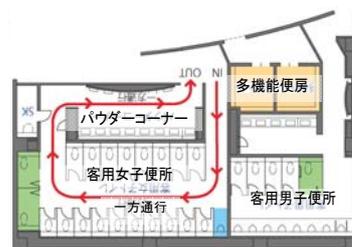
D 親子鑑賞席

独立した親子鑑賞席を設け、子どもの入場制限のある場合に配慮している。



F 女子便所ブースの旗状表示

大ホールに近接し混雑が予想される女子便所は、利用を円滑にするため一方通行としており、空き便房がわかりやすい旗状表示板を設置している。



E 磁気ループとFM福祉電波の受信機

障害者の利用に配慮し全席で磁気ループ、FM福祉電波による鑑賞補助が利用可能となっている。



G 多機能便房、乳幼児連れに配慮した便房

壁を暗色に、衛生陶器を白色にして、弱視者にわかりやすい配色としている。

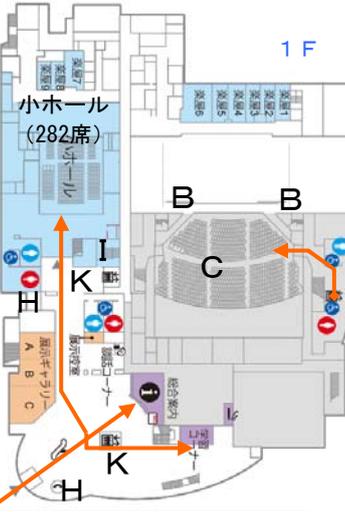
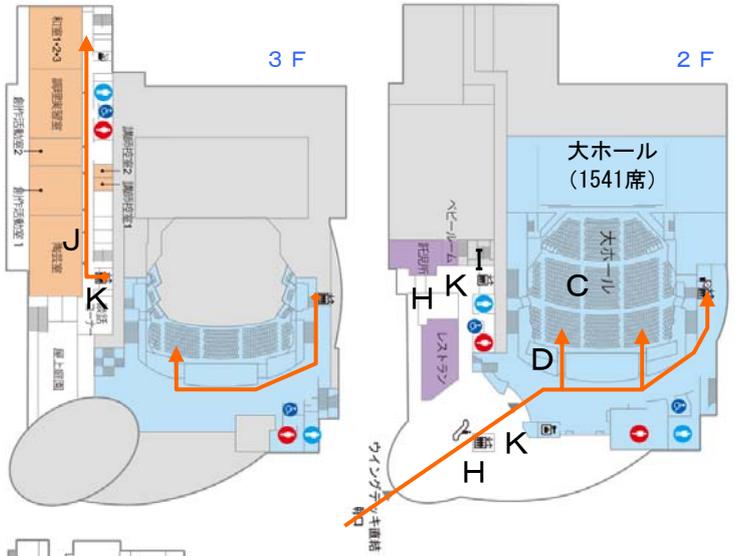


●利用者の意見を施設計画の段階から取り入れ、ユニバーサルデザインの視点から施設設計、整備を行い、障害者や高齢者も利用しやすい文化振興と生涯学習の拠点を実現



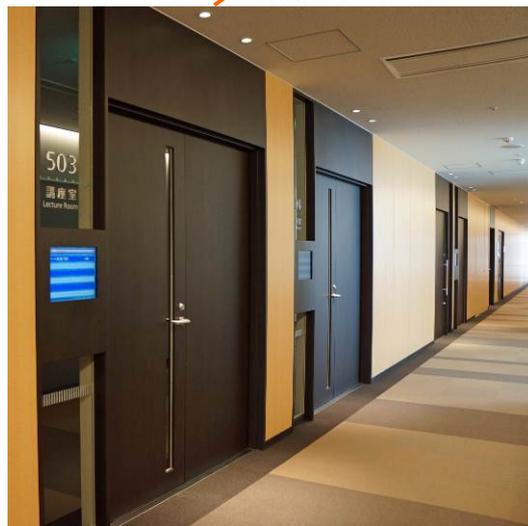
H 案内カウンター

総合案内(上)は施設の1階中央に設置されているため、主要な出入口4箇所にはサテライトカウンターを設置している。サテライトカウンターには、対応者がいない時のためにインターフォンを設置している。



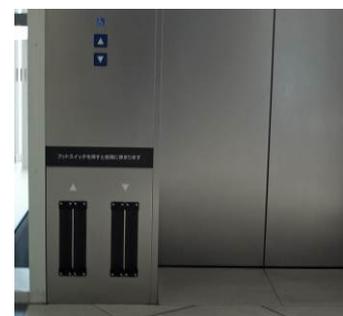
I エレベーターホールの案内表示

聴覚障害者等に配慮し、非常時の情報等も表示できる、情報案内画面が組み込まれている。



J 出入口

主要な部屋の扉位置がわかりやすくなるよう、床や壁のデザイン、照明を工夫している。また壁と床の境がはっきりするよう、床端部と巾木を濃色としている。各室の出入口にも情報案内画面が組み込まれている。



K エレベーター

上腕に障害のある方のためのフットスイッチを設けている。

(8) 老若男女、誰もが観戦を楽しめる野球スタジアム



A 施設外観

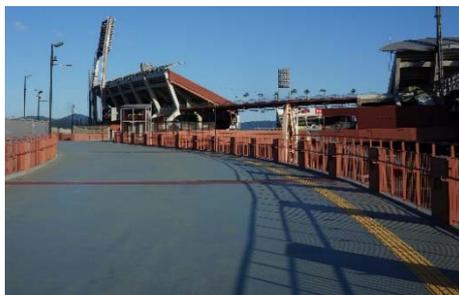
広島市民球場

所在地 広島県広島市南区南蟹屋
 発注者 広島市
 設計者 (株)環境デザイン研究所
 構造 鉄筋コンクリート造、
 PCコンクリート造、
 鉄骨造
 階数 地上7階、地下1階
 敷地面積 50,472.42㎡
 建築面積 22,964.48㎡
 延床面積 39,524.01㎡ (竣工時)
 竣工 2009年3月

本施設は、旧広島市民球場の老朽化、機能面の課題を解決し、広島市の文化・社会的中枢拠点機能の充実・強化に寄与するために計画されたものである。(最大観客定員33,000人)

これまでの球場にない新たな魅力を有する施設として、選手と観客が一体となって感動と興奮を体感できるとともに、ユニバーサルデザインに配慮し、障害者を含め老若男女誰もが楽しめるスタジアムとなっている。

ハード面の配慮とともに、運営主体であるプロ野球球団によるホスピタリティスタッフの配置等、ソフト面の対応の充実が図られている。



B 駅からメインゲートへ向かうスロープ
 広島駅方面から3階にあるコンコースまで、メインゲートを介して段差のないアプローチを確保している。(勾配5%)



C 車いす使用者用駐車施設 (34台)
 車いす使用者用駐車施設は2カ所に分けて配置している。予約の際に伝えておくと、ホスピタリティスタッフ(下記参照)が席まで案内誘導をする。



D 大型エレベーター
 利用者アンケートに基づき、3階のコンコース・観覧席に至るエレベーター(26人乗 高齢者・障害者優先)を2014年に増築した。



E サービスカウンター
 車いす使用者用カウンターを併設している。



F 球場内を1周するコンコース (3階)
 平坦で十分な幅(内野12m、外野8m)のコンコース沿いに、飲食売店、多機能便房、車いす使用者用観覧席等が設けられている。



G ベビーカー置場
 コンコース沿いに4カ所のベビーカー置場を配置している。



H 多機能便房
 大型ベッドや乳幼児用ベッドを備えた多機能便房(計24カ所、うちオストメイト用設備を有する便房12カ所)を配置している。



I 授乳室 (2カ所)
 授乳スペース、流し台、おむつ替え台、おむつ用ゴミボックスを設置している。

J ホスピタリティスタッフ

安心して野球観戦を楽しむために、プロ野球の試合の際には、常時ホスピタリティスタッフが球場に待機している。

《主なお手伝い内容》

- ・入退場の手伝い
- ・座席への案内
- ・観戦中の移動のお手伝い
- ・車いすの貸出
- ・ブランケットの貸出



- 車いす使用者用観覧席、エレベーター・便所・売店等をコンコースに沿って配置
- 多様な観覧席の計画やサービスの提供により、車いす使用者を始め、誰もがスポーツ観戦を楽しめる場を提供



K 3階車いす使用者用観覧席

コンコースに沿って、車いす使用者用観覧席を、内野・外野、ホーム・ビジター側に設置している。
 同伴者には、可動座席を設置して対応する。
 飲食しながら試合を観戦できるように、トレイが設置できるようになっている。



L 6階車いす使用者用観覧席

ホーム側、ビジター側に車いす使用者用観覧席が設けられている。
 観覧席にはエレベーターで行くことができる。

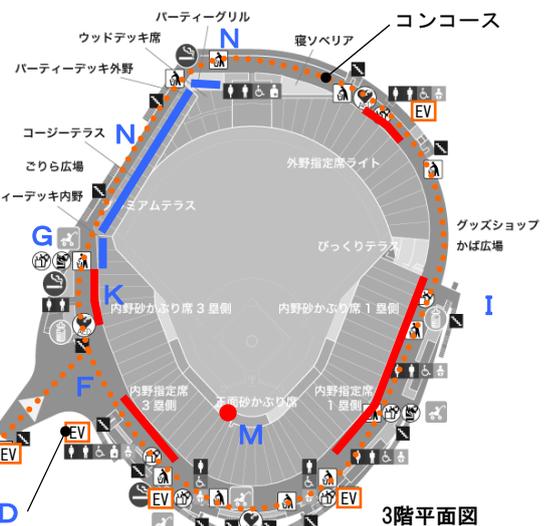
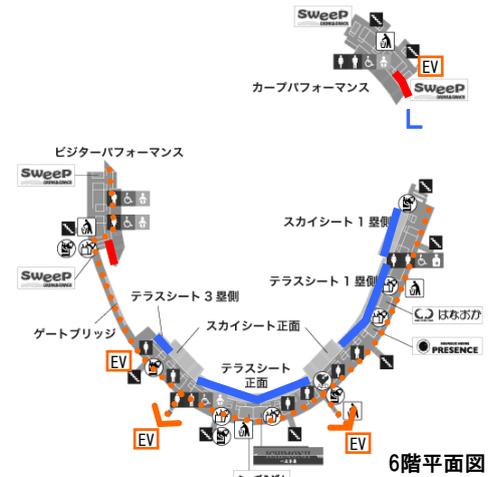


M 車いす正面砂かぶり席

バックネット裏で、目線の高さがグラウンドと同じ位置にあり、車いす使用者用観覧席と同伴者席が設けられている。

メイン
ゲート

JR広島駅方面へ



コージーテラス

N 家族や仲間と観戦を楽しむ、

バラエティに富んだ観覧席

スタジアムの各所に、食事等しながら観戦できる観覧席（床段差を解消）を設けてあり、車いす使用者も家族や仲間と観戦を楽しむことができる。
 また内野・外野の計4ヶ所、約1,000席に、集団補聴システム（磁気ループアンテナ）を設置している。

シート（観覧席）のバリエーション

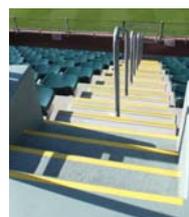
車いす使用者用観覧席 (142席)	車いす使用者も利用可能な観覧席エリア
コンコース134席（内野1塁側、内野3塁側、外野ライト側）	パーティージェッキ、パーティーフロア、テラスシート2段目、コージーテラス、ウッドデッキ1段目、パーティージェリル等
正面砂かぶり席：1席	
カープパフォーマンス：3席	
ビジターパフォーマンス：4席	

※車いす使用者用観覧席（142席）の席数は、平成26年シーズンのものであり、シーズンによって席数は異なる。



パーティージェリル

パーティージェリルに設けられた段差解消機



O 通路

段鼻の色を変えて段をわかりやすくし、手すりを設置している。



P 一般観覧席

ゆったり観戦できるように、シート横幅：50cm、奥行：85cmを確保している。
 座席表示は、文字の大きさ、色のコントラストに配慮したものとしている。

(9) 多様な利用者が快適に利用できる音楽・スポーツ・展示会等の多目的イベント施設



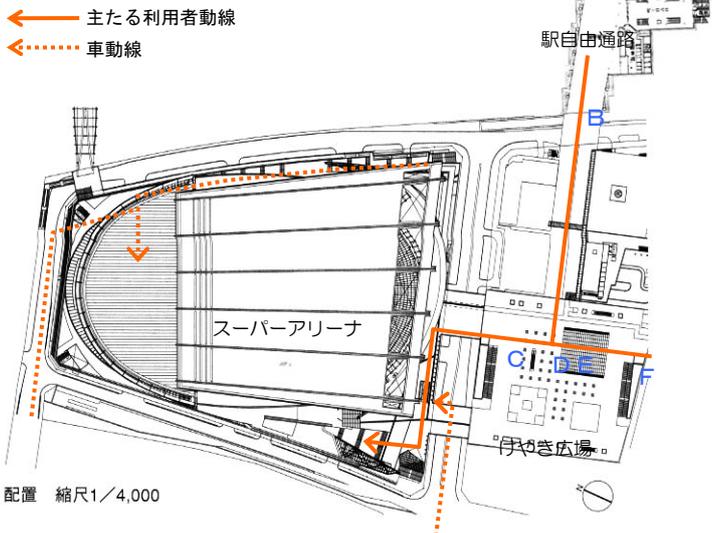
A 2階歩行者デッキからの全景
デッキを利用して各施設に自由に
行き来できる。

さいたまスーパーアリーナ

所在地 埼玉県さいたま市
設計者 MAS・2000 共同設計室(代表 日建設計)
バリアフリー指導 高橋儀平(東洋大学教授)
構造 鉄骨造、一部鉄骨鉄筋コンクリート・RC造
階数 地下1階、地上7階
竣工年 2000年3月、2000年9月オープン
建築面積 45,007m²
延床面積 132,397m²
用途 アリーナ+コミュニティアリーナ、
スタジアム(ムービングブロックの移動により可変)、文化アミューズメント施設

本施設は、さいたま新都心の賑わい、文化、情報発信の中核施設として位置づけられている。

バリアフリー都市宣言の街にふさわしく、子どもから高齢者まで、障害のある人も外国人もすべての人が安心して快適に活動できるように、先進的な誘導案内システムが整備され、イベント時にはマンパワーによるサポートもなされている。(街全域)



配置 縮尺1/4,000

- ・ 駅から施設まで街全体に2階レベルの歩行者デッキやシェルターを連続して整備し、人と車を完全分離し安全で快適な歩行者動線を確認するとともに、歩行者デッキと地上との上下移動のため、随所にエレベーターやエスカレーターを設置。
- ・ 視覚障害者のためには、視覚障害者誘導用ブロック、触知図及び音声誘導装置を、聴覚障害者のためには、LED(発光ダイオード)文字表示装置を設置するなど、障害者に配慮した歩行者系サインを整備。
- ・ 案内窓口による地区や施設案内や、車いす、ベビーカー、音・音声案内端末の無料貸出サービス、視覚障害者のための点字版ガイドマップの配布及び点字プリントサービス、聴覚障害者のためのFAXサービス、外国人のための4か国語版のガイドマップの配布。



B さいたま新都心駅自由通路
2階歩行者デッキとつながり、総合案内所がある



C 誘導ブロック上に架けられたシェルター
けやきひろばでは車いす使用者も直接樹木に触れることができる。



D デッキ階と1階を結ぶ車いす対応エレベーター
出口には視覚障害者誘導用ブロック、案内板が設置され、シェルターとつながる

音声案内誘導装置

① 現在地情報を知らせる



② 経路情報を知らせる



【携帯端末】
総合案内所、ふれあいプラザで貸出している



E 案内板
触知図、音・音声案内付きとなっている。



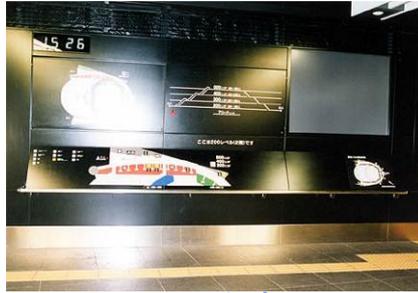
F 音声案内誘導装置付案内ポール
上部は電光掲示板。

- ・ 案内窓口による地区や施設案内や、車いす、ベビーカー、音・音声案内端末の無料貸出サービス、視覚障害者のための点字版ガイドマップの配布及び点字プリントサービス、聴覚障害者のためのFAXサービス、外国人のための4か国語版のガイドマップの配布。
- 「バリアフリーまちづくりボランティア」による障害者や高齢者などのガイドヘルプ(移動介助)(スーパーアリーナ内部)
- ・ 2階コンコースの黒い床に設置された弱視者を誘導する黄色のプライオリティレーン
- ・ イベント内容をはじめ、災害状況や避難方法を表示する聴覚障害者向け大型映像装置の設置。
- ・ 最大914席の車いす座席エリアの確保
- ・ 視覚障害者も災害時に避難しやすい、通路が出入口に直結する縦型通路方式の採用。
- ・ 聴覚障害者用の磁気誘導ループ(約400席)によるイベント内容の聴取補助
- ・ 大型ベッドが設置された多機能便房、シャワー付き多機能便房

- 都市レベルで整備された誘導・案内システム、ソフトサービス
- 車いす使用者をはじめ、様々な障害者の安全性、快適性に配慮した多目的イベント施設



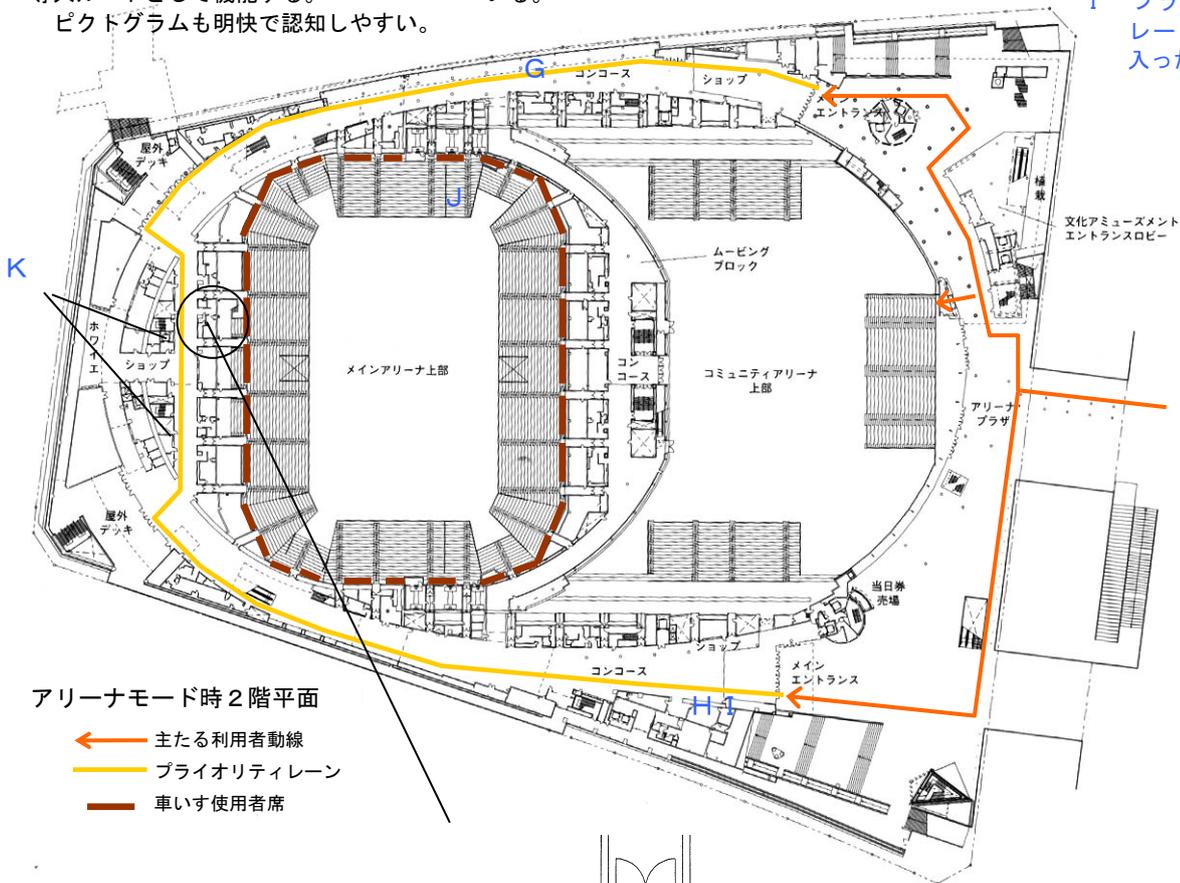
G 2階コンコースの黄色のプライオリティレーン
視覚障害者（弱視）、車いす使用者の導入ルートとして機能する。ピクトグラムも明快で認知しやすい。



H コンコース入口部プライオリティレーン手前の案内板・視覚障害者用触知図
聴覚障害者用大型映像装置が設けられている。



I プライオリティレーンの説明の入った触知図

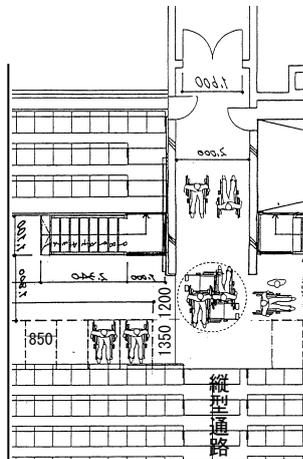


アリーナモード時2階平面

- ← 主たる利用者動線
- プライオリティレーン
- 車いす使用者席



J 余裕のある車いす使用者席
縦型通路方式により一般利用者の背後通行が少なく災害時の安全性も高い。
縦型通路に沿って見えやすい黄色の手すりが設けられている。



車いす使用者席平面図 1/200

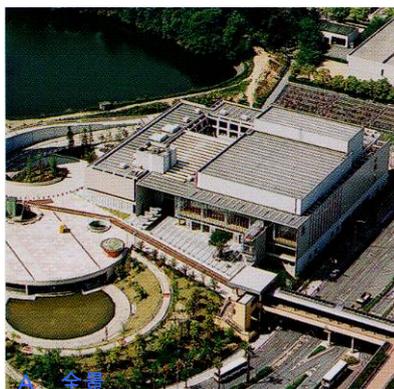


K 大型ベッド（収納式）付多機能便房



L シャワー付多機能便房
1階S1エントランスに設置

(10) モックアップ¹による検証を行った障害者交流センター



国際障害者交流センター（ビッグ・アイ）

所在地 大阪府堺市
 設計者 国土交通省近畿地方整備局
 +日建設計
 設計監修 田中直人（摂南大学）
 構造 鉄筋コンクリート造、
 一部鉄骨造
 階数 地下1階地上3階塔屋1階
 竣工年 2001年
 敷地面積 7,901.47㎡
 建築面積 4,918.11㎡
 延床面積 11,917.19㎡

1981年の国際障害者年から20年が経過し、「完全参加と平等」を踏まえた様々な取り組みが行われてきた。「国連・障害者の10年」は、高齢者、障害者等への理解も深まり、福祉の転機にもなった。

これを記念してシンボルとなるような施設を作ろうと建設されたのが、本施設である。国際的な高齢者、障害者等の交流施設として、スポーツのみならず文化活動に対しても積極的に支援しようとして計画されている。様々な工夫が凝らされているが、特に以下の点が特徴である。

- ・わかりやすい動線計画が明快であり、目的の部屋へのアプローチが円滑である。
- ・視覚障害者、聴覚障害者、移動に制約がある障害者など、多様な利用者を想定して、決め細やかな対応がなされている。
- ・耐熱ガラス入りの自動ドア、宿泊室とバルコニー間の段差をなくし、災害時の避難にも配慮した。
- ・右勝手、左勝手の便房を半々に設置した。
- ・兵庫県立福祉のまちづくり工学研究所の協力を得て、第1回目は、基本的な宿泊室の浴室と便所、共用便所のモックアップを作成し、検証を行った。第2回目は、宿泊室と前後を挟む廊下、バルコニーを含む、宿泊者が使う空間そのものをモックアップで作成し、検証した。（右表がその経緯）



B 風除室

触知案内板が設置され、インターホンが組み込まれている。



C 多目的ホールの文字表示板



D エレベーター

手話の画面表示、手で操作するボタン、足で操作するスイッチが併設されている。



E 階段への誘導のための床の貼り分け



G ホワイエ非常用扉上部の誘導灯



F 光走行式誘導装置

ホワイエの非常用扉へ誘導している。



H ホワイエ壁面の文字表示装置



I 移乗板付きの浴槽

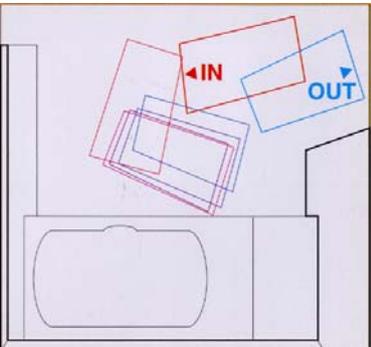
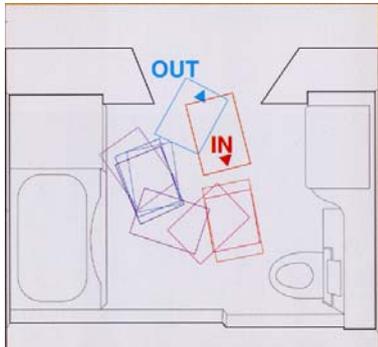


J 浴室

アイランドタイプとなっており、左右どちらからでも使用できる。

¹ 実物大の模型をつかって、実際に使い勝手を検証すること

- モックアップによる設計検証を実施
- 多様な利用者への配慮を充実

	第1回モックアップ（予備実験）	第2回モックアップ（本実験）
実験日時	肢体不自由者／1999年7月13日（火）～14日（水） 視覚障害者／1999年7月15日（木）	視覚障害者／2000年3月1日（水） 肢体不自由者／2000年3月2日（木）
場所	兵庫県立福祉のまちづくり工学研究所内住宅・都市・交通実験室	兵庫県立福祉のまちづくり工学研究所内住宅・都市・交通実験室
被験者	23名／肢体不自由者（男性16名・女性4名） 視覚障害者（男性1名・女性2名）	30名／肢体不自由者（男性14名・女性6名） 視覚障害者（男性4名・女性6名） 予備実験の結果に基づき、モデルの妥当性を検討するとともに、新たに廊下および宿泊室の各部位についてモデルを用いて検討を加えることを目的に行った。Aタイプ宿泊室については、廊下から宿泊室前室、ユニットバス、宿泊室、バルコニーへの一連の動きを検証。
Aタイプ宿泊室ユニットバス・ビデオ解析結果	実験装置の真上より撮影したビデオから、ブースの広さについての検討材料として、車いすの軌跡を追跡。 被験者：頸髄損傷・男性（立位不可能）  被験者の車いすの動作軌跡（3秒間によるプロット） 入り口から浴槽の移乗台への移動について、とくに車いすの切り換えもなく、スムーズに動いていた。立位が不可能なため、移乗台に接近する際、数回の切り返しが見られるが、その際にもとくに障害になっているものはなく、ユニットバスの広さは十分である。	実験装置の真上より撮影したビデオから、ブースの広さについての検討材料として、車いすの軌跡を追跡。 被験者：頭部外傷・女性（立位可能）  被験者の車いすの動作軌跡（2秒間によるプロット） 入り口からトイレ、浴槽の移乗台への移動について、とくに車いすの切り換えもなく、スムーズに動いていた。立位が可能のため、便器へ移乗するのにあまり便器へは接近していない。ヒアリング調査からも、ユニットバスの広さは十分であることが得られている。
ヒアリング結果	対象：被験者 ユニットバスの移乗台の広さ(10名)とシャワーの位置(9名) ・浴室内における各手すりは、とくに問題なし。 ・移乗台については広くしてほしいとの意見が多い(10人中3人)。 ・移乗台や浴槽内からのシャワーの位置が遠いとの指摘も多い(9人中5人)。 便座の高さ(N=20)と腰壁の横手すりへの代替の可能性(N=9) ・トイレにおいても各手すりについては、とくに問題はない。便座の座面が“低い”とする指摘が多く(20人中12人)、実験を辞退した被験者もいた。腰壁は、とくに立位不可能者から“便器から腰壁が突き出る分、あいだが狭くなる”という指摘が出たが、全体的には“横手すりの代わりになる”と、設置については肯定的だった。	対象：肢体不自由者(19名) ユニットバス・便所における問題点の有無 ・「戸の操作性」や「タオル・ドライヤーの位置」については、ほぼ「問題ない」という結果となった。「手すりの位置」についての指摘が多く(19人中9人)、とくにサイド手すりに関するものが見られた。 対象：視覚障害者(10名) 便所における問題点の有無 ・便器まわりのスイッチ類について位置確認しづらい人もいたが(10人中2人)、全体的にとくに問題はない。洗面台の位置や操作およびドライヤーなどの位置の確認についての問題もない。 ※なお、予備実験、本実験は宿泊室（前室・宿泊室・バスルーム・バルコニー）以外に廊下・共用便所についても行われた。実施設計は実験結果の修正をふまえる。

資料：TOTO通信 別冊 2001冬号

(11) 敷地内・建物内に段差を設けない斎場



A 全景

やわらぎ斎場厚別

所在地	北海道札幌市厚別区厚別3丁目
設計者	日本都市設計(株)
構造	鉄骨造
階数	地下1階、地上2階
竣工年	2001年11月
建築面積	1,697㎡
延床面積	2,757㎡
用途	斎場

本施設は、札幌近郊を中心に複数の冠婚葬祭場を展開している民間企業が運営している。本施設を計画するにあたり、「斎場を利用される全てのお客様がストレスを感じずに見送ることのできる施設」とすることが求められた。

その実現のために建築的に求められたのは、旧ハートビル法認定建築物と札幌市福祉のまちづくり条例適合建築物の両方の条件を満たすことであった。

主な建築的手法としては

- ・アプローチ、エントランス部分には車いす使用者が通過する際に支障となる段差は設けていない。
- ・視覚障害者への対応としてエントランスから受付まで視覚障害者誘導用ブロックを設置している。
- ・施設全体に車いす使用者や高齢者の障害となる段差を無くし、床面は滑りにくい材料で仕上げている。
- ・葬儀式場、法要室、親族控室等の斎場利用者が使用する部屋の戸は全て引戸としている。
- ・階段は手すり、視覚障害者誘導用ブロックを設け、踏面は粗面とし、滑りにくい材料で仕上げている。
- ・葬儀式場の引戸は軽めのものとし、ストッパー及び自動閉鎖装置付とする。床面は粗面とし、滑りにくい材料で仕上げている。
- ・エレベーターは車いす使用者専用ボタン、視覚障害者用誘導用ブロック、音声案内装置を設け、車いすが回転できるスペースを確保している。
- ・多機能便房は乳幼児用ベッド、自動洗浄、非常用呼出しボタンを設置している。
- ・車いす使用者用駐車スペースは雨雪を考慮し、屋根を設け、エントランスまでの段差を無くし傾斜路で対応している。



B アプローチ

段差を排除したエントランスとなっている。



C 風除室

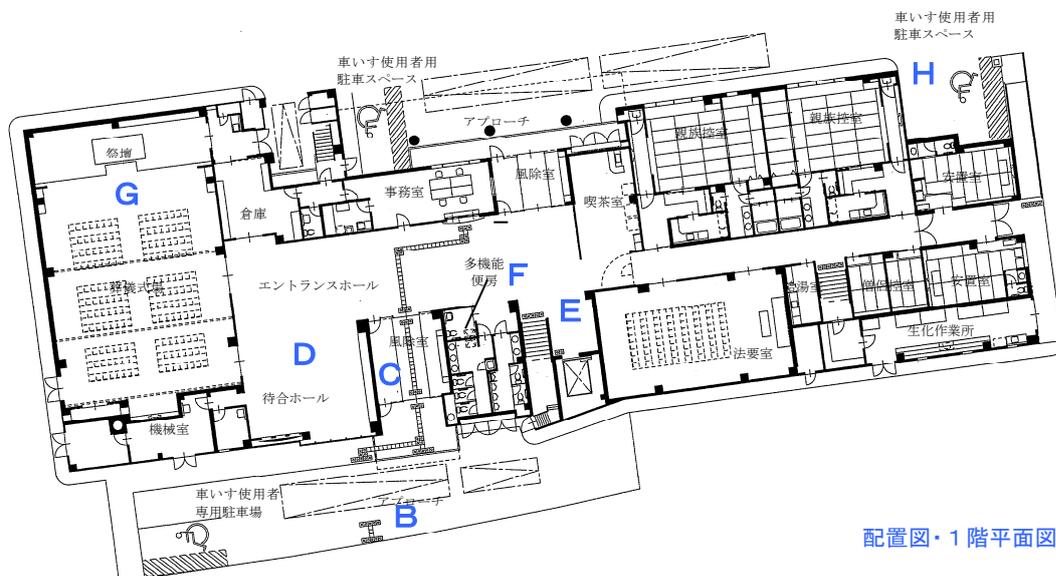
エントランスホールまで連続して、視覚障害者誘導用ブロックが敷設されている。



D 待合ホール

明るく広々とした待ち合わせの場となっている。滑りにくい床材が使用されている。

- 視覚障害者に配慮したエントランスホール
- 車いす使用者に配慮した駐車場



E エレベーターホール
エレベーターには音声案内装置が設けられ、車いすが回転できるスペースも確保されている。



F 多機能便房
折たたみ式の乳幼児用ベッドが設置されている。



G 葬儀式場
滑りにくい床材の仕上げとなっている。



H 車いす使用者用駐車スペース
雨雪時を考慮した屋根が設置されている。

(12) 様々な配慮が随所に見られる百貨店



A フィットtingルーム

出入口の段差を解消し、中で車いすが回転できるスペースをとっている。また、2人がけのソファもあり、ゆったりと試着が可能。



B 店内通路

車いすのすれ違いに十分な有効幅員を確保。



C 障害者対応エレベーター

障害者用のエレベーターが4機設置されており、うち1機は車いす、ベビーカー専用としている。機内の画面に停止階の表示が出るなど、聴覚障害者にも配慮されている。(左)

また、機内に設置された2種の高さの手すりのうち、低い位置のものについては、子どもがぶつかるとの利用者の声に応じてクッション材を巻く対応を行っている。(右)



新宿高島屋

所在地	東京都渋谷区千駄ヶ谷
設計者	(株)日建設計
構造	鉄筋コンクリート造、鉄筋鉄骨 コンクリート造、一部鉄骨造
階数	地上14階、地下4階、塔屋2階
竣工年	2000年3月
敷地面積	14,501.11㎡ (ビル全体・他店舗含)
建築面積	11,163.29㎡ (ビル全体・他店舗含)
延床面積	160,147.45㎡ (ビル全体・他店舗含)
売場面積	55,000㎡
用途	店舗

新宿高島屋は、複合型商業施設の都市型マルチエンターテイメントショッピングセンターとして建設された新宿タイムズスクエアのアンカー店舗であり、東京都の認定第1号である。

規模も大きな店舗であり、高齢者、障害者等への配慮、設備も多くの箇所に見られる。

また、フィッティングルームにも車いすが入る大きさのものを用意するなど配慮がなされている。



D 多機能便房

店内16箇所に多機能便房が設置されている。

- ・車いす使用者に配慮した広い空間
- ・手すりの完備
- ・子どもも使用可能な二重便座(写真左)
- ・乳幼児用ベッド
- ・傘立ての設置
- ・個室内で着替えができる、着替え台(写真右)
- ・2箇所はベッド付き多機能便房となっている。



E 便房

多機能便房以外の便房にも以下のような配慮がある。

- ・便房前通路に手すり設置
- ・女性用エリアにゆったりしたパウダールーム
- ・男性用エリアに各1箇所手すり設置の小便器
- ・和式便器に手すり設置
- ・滑りにくい床材採用

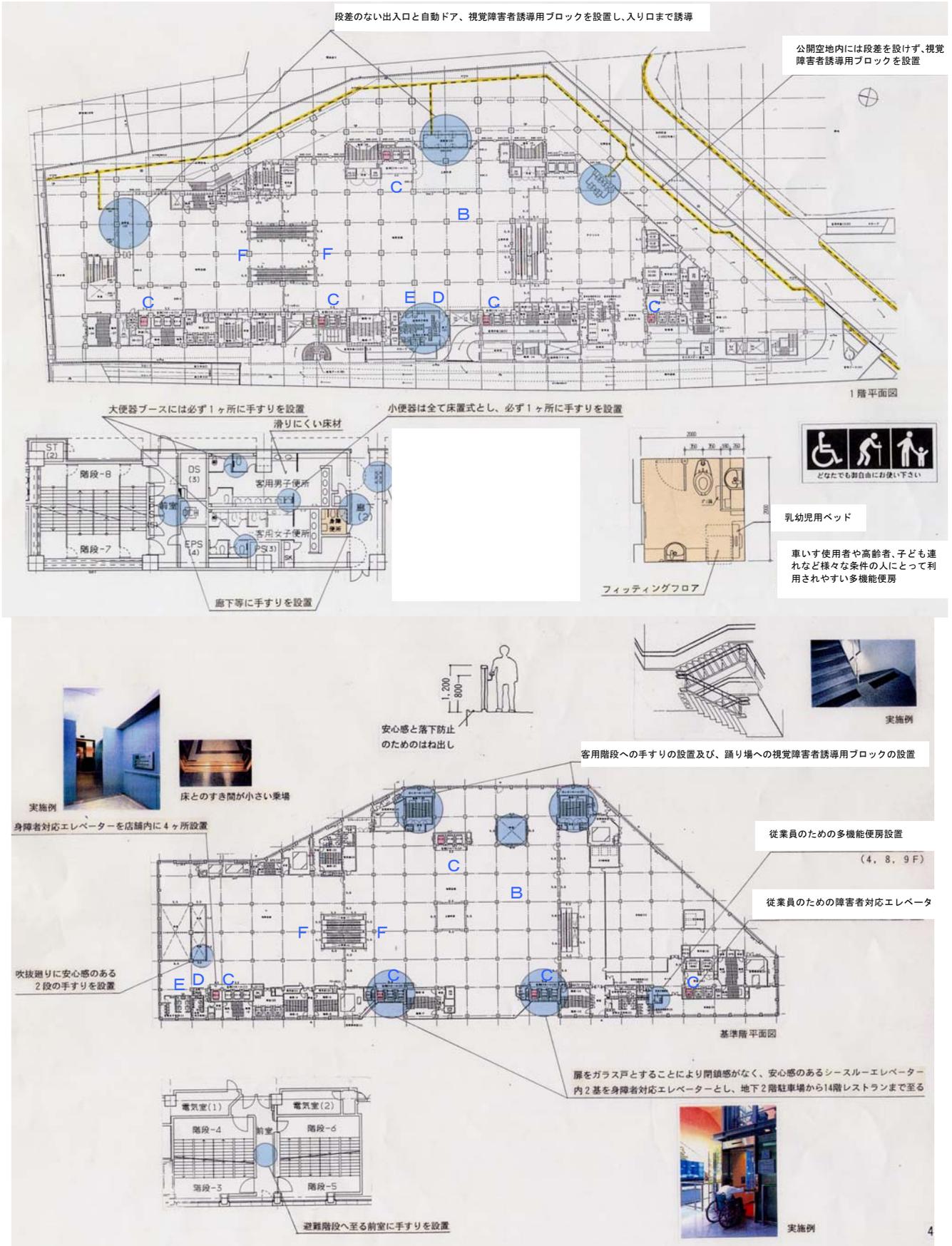
F フロア表示

エスカレータを使っていると、昇り降りが続くと、自分のいるフロアがすぐに分からないことがある。

エスカレータの乗降口には、フロア案内を設けているが、階数を大きく表示し、階毎に色を変え、4カ国語で表示するなど、分かりやすさに配慮している。



- 多機能便所の機能充実
- 車いす使用者対応フィッティングルームを設置
- 障害者対応エレベーター4機を配置



(13) 改修によって各階ごとに異なるバリエーションの便房を整備した百貨店



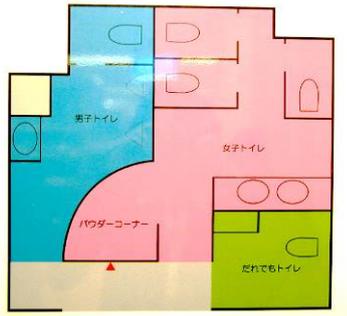
A 外観

松坂屋上野店

所在地 東京都台東区上野 3-29-5
 設計者 (株)竹中工務店
 階数 地下3階地上8階
 竣工年 1929年4月
 改修工期 3F 2001年8月~9月
 4F 1998年8月~9月
 敷地面積 5,842㎡
 延床面積 51,638㎡
 用途 店舗

百貨店の改修工事によって、3階、4階に様々な障害者が使えるように右勝手と左勝手の多機能便房を設置した。各階に異なるバリエーションの便房を設置する事によって、利用者は、身体状況や必要に合わせて、自分にあつた設備の便房を利用する事が可能となった。この便所がある建物は、昭和32年に増改築されたもので、この工事によって、利用者の快適性も各段に向上した。

各階において異なるバリエーションを採用する事によって、利用者の幅を広げた好例である。



B 便所入口

便所入口には、全体のレイアウト、ゾーン分けが良く分かる案内図を設置している。

- ・3階は、改修工事という制約が多い中で工夫が凝らされた例であり、男・女用便所と、右勝手の便房とした。4階は、女性用品を販売している階であることから、女性専用便所階として改修し、多機能便房では、便器や手すりを左勝手の配置とした。
- ・多機能便房は、車いす、ベビーカー利用者、子連れ、ストッキングの履き替えなど、だれもが使えるように整備されており、便座は温水洗浄便座、背もたれシート等を設置している。
- ・便房内はすべて、ゆとりがあるスペースを確保しており、荷物を置く為の棚や、高さが異なるフックを設置している。



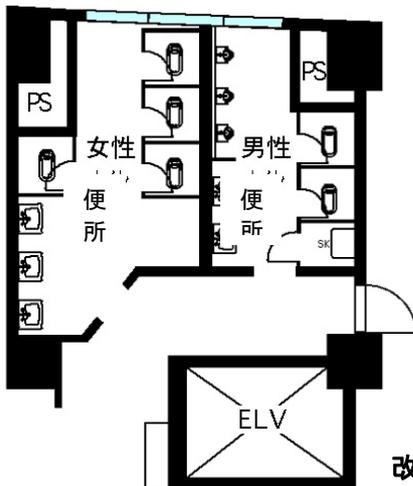
C 多機能便房の大便秘器まわり

右勝手の多機能便房が3階に設置されている。

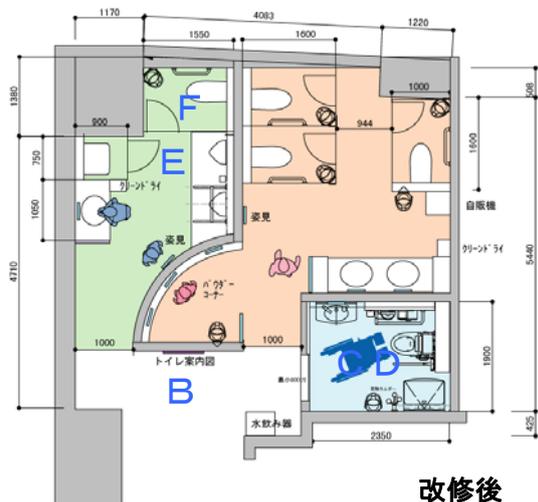
女性用便所+左勝手の多機能便房として改修
 男性・女性用便所+右勝手の多機能便房として改修

8 F
7 F
6 F
5 F
4 F
● 3 F
○ 2 F
1 F

3 F 便所平面図



改修前



改修後

- 便所のゾーン分けが良くわかる案内図を設置
- 3階、4階の便所を改修し、右勝手と左勝手の多機能便房を設置
- 男性用便所にも乳幼児用いすを設置



D 多機能便房
乳幼児用いす、乳幼児用ベッド、着替え台を3階に設けている。

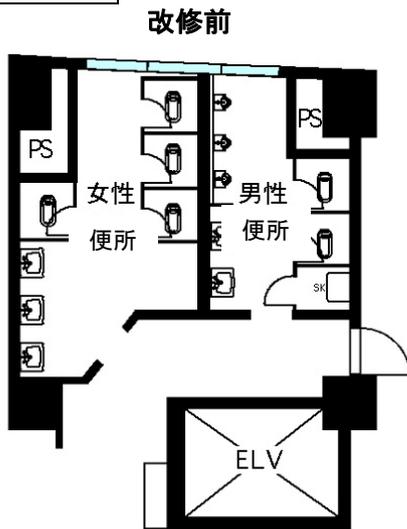


E 男性用便所の小便器便房
3階男性用便所の小便器にも手すりを設けている。

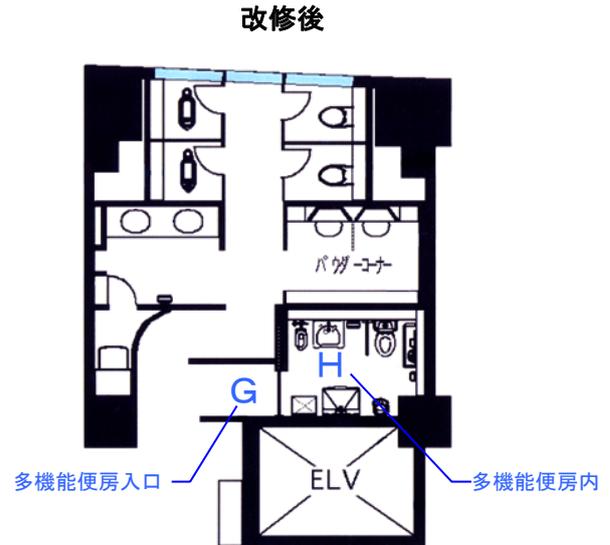


F 男性用便所の大便器便房
3階男性用便所の大便器便房にも乳幼児用いすを設けている。

4 F 便所平面図



改修前



改修後



G 多機能便房入口
デザイン性にも配慮した、4階多機能便房入口

H 多機能便房
4階に設置された左勝手の多機能便房



(14) 地域の障害者団体が店舗の計画に参加したスーパーマーケット



A 外観

歩道との境界に段が無く、店舗入口横のインターホンまで、視覚障害者誘導用ブロックが設置されている。

ジャスコ茅ヶ崎店

所在地 神奈川県茅ヶ崎市茅ヶ崎 3-3000-1 他
 設計者 (株)東畑建築事務所、(株)大本組
 構造 鉄骨造
 階数 5階建
 竣工年 2000年10月
 敷地面積 26,384.23㎡
 建築面積 17,120.11㎡
 延床面積 64,673.25㎡
 用途 店舗

このスーパーの開店にあたっては、地域の障害者団体が計画、建設に参加し、その意見を様々な形で反映したものである。

その結果、障害者だけにかぎらず、子どもや妊婦まで幅広い利用者が使いやすいようハード面とソフト面の両面からの工夫が実現されている。



B インターホン

1階に4ヶ所設置。このボタンを押すと、サービスカウンターでキャッチして店員が対応

C 歩行補助車

- ・歩行補助車 10台
- ・幼児用カート 100台
- ・車いす 10台
- ・車いす用買物補助具 7台を無料で貸出している。正面入口、南側入口と4階駐車場に設置。



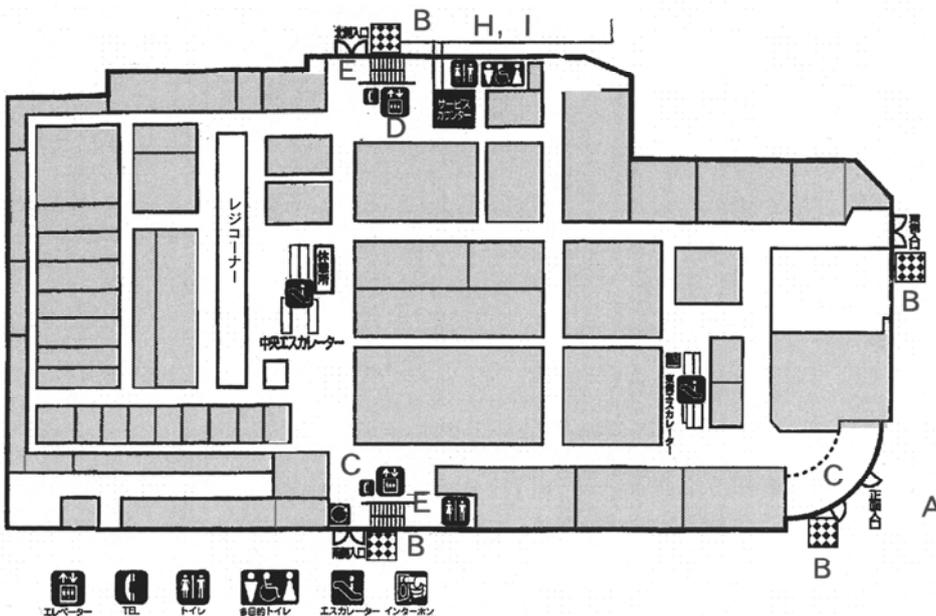
D 障害者対応エレベーター

通常のエレベーターより戸の開閉速度が遅い。



- ・地元の障害者団体との3回の協議の結果、様々な意見が採り入れられた。
- ・車いすのまま入れる大きな試着室を設置している。
- ・多機能便房に尿器や高齢者、障害者等のオムツ交換用に大型ベッドを設置している。
- ・聴覚障害者用緊急灯を設置している。
- ・手すりには、点字表示がある。
- ・ソフト面でも、係員が付き添ったり、インフォメーションカウンターに手話ができる人員を配置している。(FAXで予約も可能)
- ・要望があれば、ガイドヘルパーとして買い物につきそう人員を配置している。

1F 食品と美容健康・ファッショングッズのフロア



地域障害者団体の参加の経緯

- 1999年3.5 出店説明会
- 2000年4.17 障害者団体から計画への参加の打診
- 2000年4.25 第1回協議 (障害者団体からの要望書提出)
- 2000年6.23 第2回協議 (要望に対するジャスコからの回答説明)
- 2000年8.23 第3回協議 (最終調整)
- 2000年10月 オープン

- 地域住民の意見を反映してバリアフリー化
- 多機能便房に尿器・大型ベッドを設置
- 売りに車いす使用者も使える大型フィッティングルームを設置
- 飲食店に昇降テーブルを設置



E 階段

階段はゆるやかに連続して、視覚障害者誘導用ブロック及び左右に2段手すりを設置。



G 飲食店の昇降式テーブル

車いす使用者や子どもの使いやすい高さに合わせて。障害者団体との協議により設置。

F フィッティングルーム

車いすでも試着できるように、広めのブースになっている(上)。手すりの設置や広めの腰掛けが設置してあり、使いやすくなっている(下)。

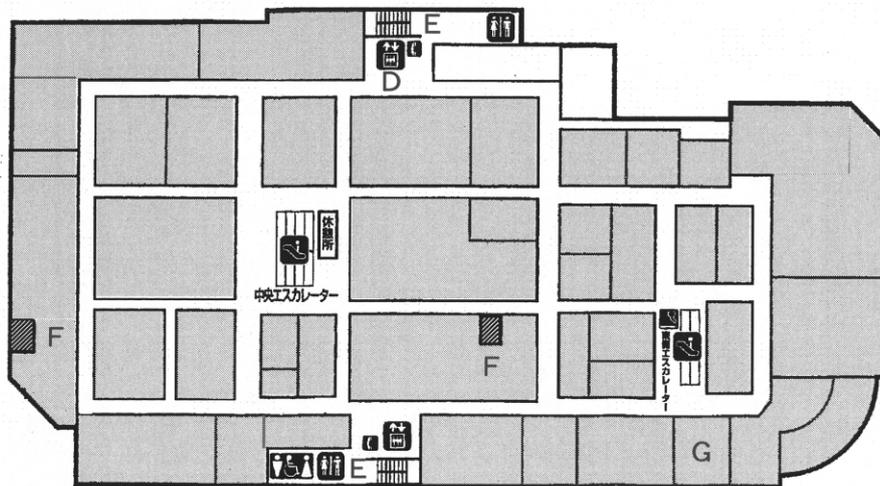


H 多機能便房

両側に手すり、自動洗浄機、子ども用便座、大型ベッドを設置。



2F 婦人と紳士のファッションフロア



- 店舗
- 大型フィッティングルーム
- インターホン

※各所に点字表示あり



I 尿器の設置

障害者団体との協議により尿器を設置。

(15) 買い物のしやすさにも配慮したコンビニエンスストア



A アプローチ

歩道から出入口までの間は視覚障害者誘導用ブロックを敷設。また、数cmある出入口の段は傾斜路にして解消している。



B 駐車場

車いす使用者用駐車スペースは、通常よりも広く取っている。また、出入口に最も近い位置に配置している。



C 出入口

出入口は自動ドアとなっている。

ローソン勝島一丁目店

所在地	東京都品川区勝島1-2-8
設計者	ローソン(株)建設部
構造	造
階数	地上1階
竣工年	2000年3月
建築面積	172.83㎡
延床面積	172.83㎡
売場面積	99.45㎡
用途	店舗

「人にやさしい店づくり」をめざし、車いすでも利用可能な施設としている。車いす使用者用駐車スペースや多機能便房、通路幅の確保だけでなく、車いすの人でも使いやすいよう、カウンターを一般の高さのものとローカウンターの2種類設置している。

また、車いす使用者や子どもが高い位置にある商品を取れない場合のために、従業員呼出チャイムを設けて対応している。



D 従業員呼び出しチャイム

車いす使用者や子どもなどが、高い位置にある商品を取れないときなど、従業員を呼び出すためのチャイムが2箇所に設置されている。



F 店内通路

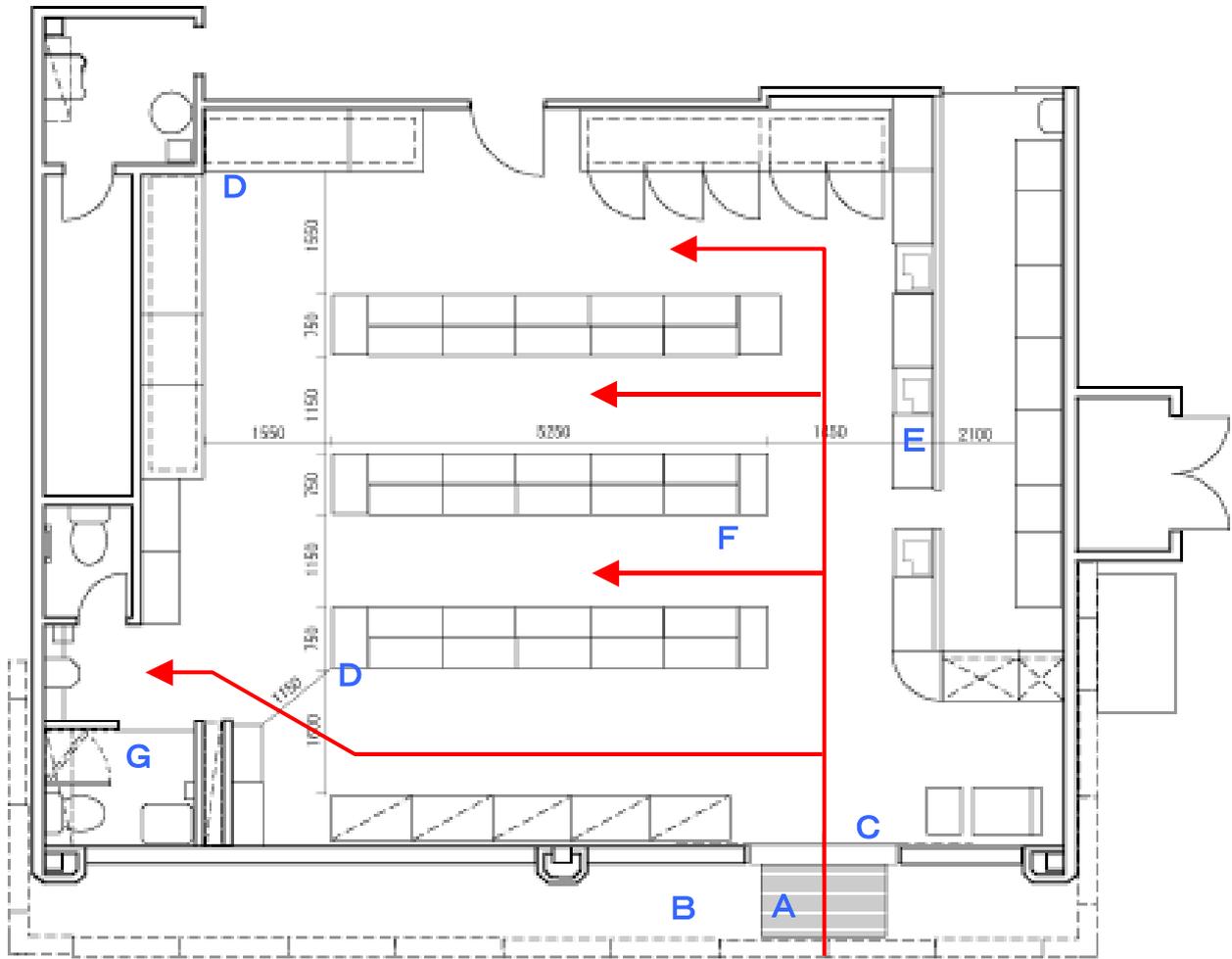
他の店舗よりも広く取り、車いすも通行できる有効幅員としている。



E レジカウンター

車いす使用者や子どもなどの利用に配慮し、一般の高さのカウンターと約15cm低くしたカウンターの2種類を併設している。また、車いすフットレスト当たりを設置している。

- 多機能便房とそれ以外の便所を設置
- 高い位置にある商品が取れないときのために、従業員呼出チャイムを設置
- 高さの異なるレジカウンターを設置



← 主たる利用者動線



G 多機能便房

車いす利用者も利用できる便房を設置。入口には、「どなたでも御自由にお使い下さい」との札を付けている。

